

やりたいことがあるなら
とことん追求してほしい。
簡単に夢をあきらめないでほしいですね

人権活動家
土井香苗

Kanae Doi
土井香苗

どい・かなえ●1975年 神奈川県生まれ。世界最大級の人権保護団体、ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表。東京大学法学部卒。中学生のときに『人間の大地』(犬養道子著)を読んで衝撃を受け、人権保護活動に興味を抱く。大学3年生のときに当時史上最年少で司法試験に合格。4年生のときにアフリカのエリトリアで1年間司法ボランティアを経験。帰国後弁護士になりアフガニスタン難民弁護などに携わる。アメリカのロースクールへの留学、ヒューマン・ライツ・ウォッチのニューヨーク本部のフェローを経て2009年、ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京オフィス設立。代表として世界の人権保護活動に取り組んでいる。2010年第32回エイボン女性賞受賞。著書に『巻き込む力 すべての人の尊厳が守られる世界に向けて』(小学館)、『ようこそ』と『よる日本へ』(岩波書店)などがある。

少数派であっても差別されず、戦争状態であっても市民が虐殺されず、世の中に向けて誰もが自由に言いたいことを発信できる。このような、人々が基本的な人権を享受できる世界を作ることが私の夢です。私達日本人にとっては当たり前ですが、世界にはまだまだ基本的な人権を侵害されて苦しんでいる人々が大勢います。その人々を救うための活動が私の仕事です。

他人の人権を守るためになぜ人生をかけてまで働くのかとよく聞かれます。でも自分の仕事が一生涯の役に立っているんだろうと考える必要はない、ということも思っています。だから人の役に立つ仕事をした方がいいのは、ごくラッキーで幸せだと思っています。

高校生の皆さんには夢があるならあきらめないでほしいですね。私の場合は高校生の頃から世界中の虐げられている人を助ける仕事かしたいと思っていたわけですが、具体的な職業としてはわかっていませんでした。周囲からもそんな仕事はないと言われましたが、大学に入ってキャリアの模索をしたことで、人権保護と生活を両立できる今の職業に辿りつけました。人生は一度きりしかないので、やりたいと思つことがあってもやらせてみればいいんです。その過程で貧乏になることもありますが、若いときの貧乏は楽しんでいるのでいいんです(笑)。